



カケハシ・プロジェクト（派遣プログラム）の記録

対象：ユダヤ研究者派遣

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として米国へ日本の研究者計 7 名 が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に加え、日本でのユダヤ学研究に関する理解促進や日本の魅力等の積極的な発信を目指し 2020 年 3 月 3 日～3 月 10 日の日程でプログラムを実施しました。

一行は、交流先で日本でのユダヤ学研究について発表及び意見交換会を行うとともに視察先では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項や体験について SNS を通じて積極的に対外発信を行いました。

【参加団体・人数】

ユダヤ研究者（東京大学大学院他）7 名

【訪問地】

ニューヨーク州、ワシントン D.C.

2. 日程

3/3(火)	【到着】
3/4(水)	【オリエンテーション】 【表敬訪問】在ニューヨーク日本国総領事館 【視察】コングレゲーション・ベルト・シムチャ・トーラ (CBST) 【視察】コングレゲーション・シェアリス・イスラエル (CSI)
3/5(木)	【視察】ユダヤ調査研究所 (YIVO) 【視察】米国セファルディ連盟
3/6(金)	ニューヨーク州ニューヨーク市からワシントン D.C. へ移動 【表敬訪問】在米国日本大使館 【レセプション】アメリカユダヤ人委員会 (AJC)、ブネイブリスとの合同交流会 【視察】シア・デライト（ユダヤ教徒会合）
3/7(土)	【交流】ユダヤ広報協会 (JCPA) 会長兼 CEO ディビッド・バーンSTEIN 氏との会合 【視察】米国ホロコースト記念博物館 【交流】ラビとの夕食交流会 【交流】ユダヤ人ジャズ演奏家との交流
3/8(日)	【ワークショップ（報告会準備）】 【視察】「ワンダラズ」（ユダヤ人に関する演劇）鑑賞

3/9(月)	【出発】
3/10(火)	【帰国】

3. プログラム記録写真



3/4【視察】コングレゲーション・シェアリス・イスラエル(CSI)



3/5【視察】ユダヤ調査研究所(YIVO)



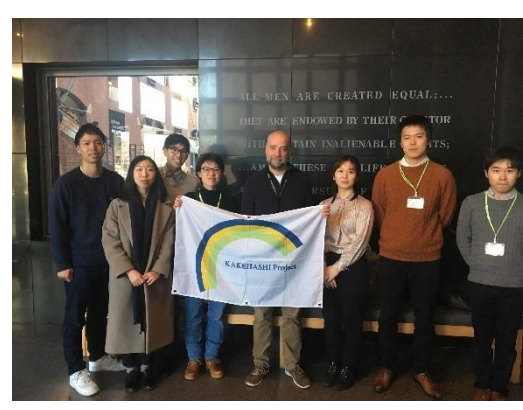
3/6【表敬訪問】在米国日本大使館



3/6【視察】シア・デライト（ユダヤ教徒会合）



3/7【交流】ユダヤ広報協会 会長兼 CEO デビッド・バーンステイン氏との会合



3/7【視察】米国ホロコースト記念博物館

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 今回の訪問を通じて一番印象に残ったことは、米国のユダヤ人社会の多様性・重層性・開放性です。性的少数者らに開かれたシナゴグの訪問から始まり、歴史のあるスペイン系ユダヤ人のシナゴグ、ユダヤ人の若者の集まり、インドにおけるユダヤ人社

会に関するお話、東ヨーロッパのユダヤ音楽まで、一つの民族集団としてだけでは括れない、多くのコミュニティに触れることができ、自らの考えを深める機会となっただけでなく、普段自分がフィールドとしているイスラエルにおけるユダヤ人社会と比較して考える機会として貴重な経験でした。特に、団体として訪問できたことで、研究者として個人で訪問し、研究を行うだけではできない体験ができました。具体的には、ユダヤ調査研究所(YIVO)のイディッシュ語の歴史的な資料を見せていただくことができ、通常会うことができないような方と意見交換することができたのは、大変有意義でした。普段はなかなか交流することのできない日本の若手のユダヤ研究者と考えを交換することができたことにより、自らの考えや立場を改めて考えるきっかけとなりました。英語でのコミュニケーションについて見つめなおすきっかけにもなりました。

◆ 特に印象的だったことは第一に、ニューヨークのYIVOが保有するユダヤ文化に関わる貴重な資料を実際に見せてもらったことです。その中には古い歌や器楽の楽譜もありました。現在オンライン公開に向けてデジタル化作業が進んでいるということを聞き、すぐにでもアクセスしたいと思いました。またYIVOでは、図書室の利用法も教えていただいたので、再度訪れて、中東欧ユダヤ音楽の資料を利用したいです。第二に、シア・デライトの行事において、安息日を迎える歌を歌う機会をいただいたことです。宗派や場所によって、歌の歌詞は同じでも、その旋律が異なることを知りました。この行事で知り合った人の話によると、旋律の装飾や歌い方は宗派等によってかなり差があり、そうした様式は、口頭伝承で伝えられているということでした。この宗派や場所による様式の差については、今後機会があれば調べてみたいと思いました。第三に、コングレゲーションで、米国のユダヤ系ジャズ音楽家の活動と作品に関する講義を聴いたことです。特に彼らのジャズ作品に、クレズマー音楽の旋律の影響がみられるという話を興味深く伺いました。私はこれまでユダヤ系作曲家による、あるいはユダヤを題材にした、クラシック音楽作品には、クレズマー音楽やハシッド派と呼ばれるユダヤ人の歌ニグンの旋律を用いた音楽が存在するを知っていましたが、ジャズ作品にも、クレズマー音楽等のユダヤ人の民俗音楽の影響が現れていることを初めて知りました。今後、紹介された作品の分析を行い、ジャズとクレズマーの影響関係について明らかにしていきたいと考えています。

◆ 在ニューヨーク日本総領事館への訪問では、領事からシリアでの臨時大使時代のお話やニューヨークでのユダヤ人団体とのお話を伺うことができました。特にユダヤ研究が、多かれ少なかれ現在の欧米や中東の政治的情勢、利害に左右され、それに対し研究者がどのように距離を取るかと指摘されたことは重要で、では実際にそうした利害を超えた研究がどの程度可能なのか、特に日本のような欧米や中東に含まれない国でのユダヤ研究の可能性をどう開いていくかが、今後の課題であると改めて認識しました。コングレゲーション・ベルト・シムチャ・トーラ(CBST)でLGBTQの宗徒を広く受け入れる姿勢を取るこのユダヤ教徒コミュニティを訪問できたことは、米国におけるユダヤ教の多様性を知る上で貴重な機会となりました。特に正統派に属しながらも、このコミュニティで礼拝を執り行っているラビの話は興味深く、性的少数者含む全ての人々に向き合う重要性を説く様子は印象的でした。より多くの時間があれば、ユダヤ教の教義と性的少数者の関係について詳しく知りたいと思いました。シア・デライトの視察では、様々な

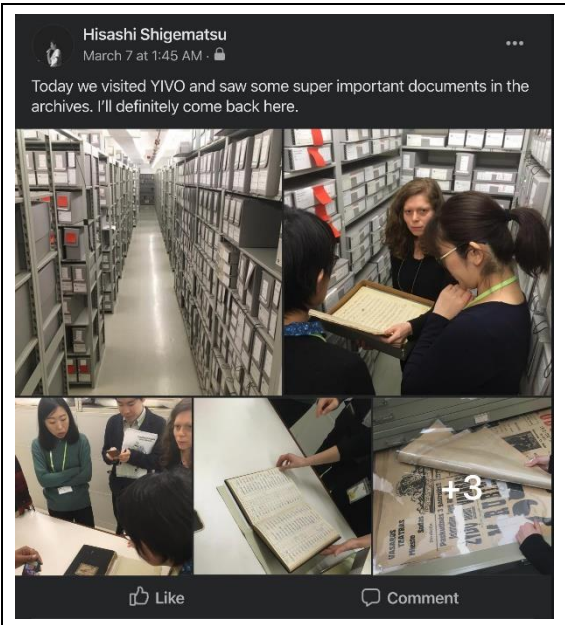
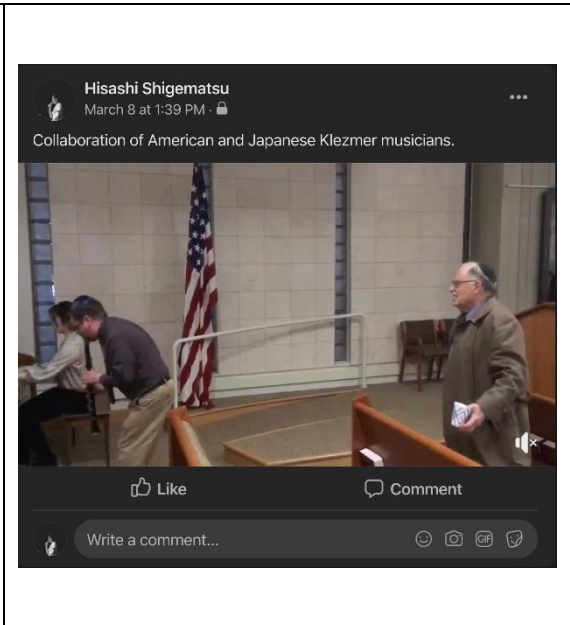
ユダヤ教徒の方と交流できたことも貴重でした。興味深かったのはこの礼拝の参加者は全員が顔なじみというわけでは必ずしもなく、各地から今回の礼拝のために集まり、夕食を囲むことで交流を行っている点でした。こうした地域を超える結びつきやアイデンティティを、宗教が可能にしているというのは特徴的で、これまで地域的なつながり（地縁）やそれに根差したアイデンティティ（地元愛）を漠然と抱いてきた私には、改めて印象深く感じられました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ユダヤ研究者の方々との交流はたいへん重要であると考えています。我々は、ユダヤ研究者派遣団の参加者の皆様が示す、たぐいまれな才能には毎回驚かされます。

◆ ユダヤ研究者派遣団の、学術的に優れた参加者の皆様からたくさんことを学びました。また、研究者の皆様には、米国滞在中に、ユダヤ系の人々及び米国の人々の生活・ダンス・伝統・若いリーダーとの会合等、さまざまなことを実際に体験していただくことができ、嬉しく思います。

6. 参加者の対外発信

	
視察についての発信 (Facebook) 今日は、ユダヤ調査研究所を訪れ、大変貴重な歴史的資料を閲覧しました。私は、必ずまた訪れます。	交流についての発信 (Facebook) 米国人と日本人のクレズマー音楽の共演。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

アクション・プランの発表

- ・ 報告会の実施：米国やその他の地域のユダヤ人コミュニティへの一般の関心は、日本では必ずしも高いものではない。米国などのユダヤ人コミュニティへの理解を促進するため、本派遣プログラムの参加者による成果報告会を関東と関西で行う。現地での様子の分かる視察写真を使いながら、各訪問先に関する説明と交流の内容についてプレゼンテーションを行う。具体的には、ユダヤ教／民族の第二の中心地であるアメリカにおける「ユダヤ性」の多様性を、本プロジェクトを通して出会った多様な「ユダヤ人／ユダヤ教徒」の言葉を交えつつ紹介する。
- ・ 動画の作成：本派遣プログラムの紹介動画を制作する。文字や写真だけでは伝えきることのできない雰囲気や、動画を活用することで発信する。本派遣プログラムのみを紹介するだけでなく、カケハシ・プロジェクト自体がどのようなものであるかも紹介する。制作期間は3月末を目処に設定し、今後開催予定の報告会、SNS やその他のメディアを通じて発信し、より多くの人たちにカケハシ・プロジェクトを知ってもらうことを目的とする。
- ・ ニュースレターの作成：参加者全員がプログラムの概要や訪問先について記事を作成し、ニュースレターにまとめ、報告会などで配布したり、オンライン上で公開したりした。
- ・ 講義での報告：講義「音楽の世界」にて報告する。この報告を通じて、学生が先入観なくユダヤ人の文化や音楽に親しみ、宗教的な背景との関わりの中で音楽を理解できるようにする。
- ・ ラジオ番組での広報：ラジオ番組“Komae AM Monday”に出演し、本派遣プログラムについて説明する。ラジオ放送を機に一般の人たちにも情報発信し、反応をみたいと考えている。アメリカ社会やユダヤ社会を多角的に見られる人を増やすことを目指している。
- ・ 『ヴィルナ・ゲットー日記』の翻訳：本派遣プログラムの訪問先の一つであるYIVO のアーカイヴで保管されている貴重資料『ヴィルナ・ゲットー日記』（イツハク・ルダシェフスキ）の日本語訳に着手する。